



小学生・中学生の皆さんへ

2019年[令和元年]

発行：荒川区
発行部数：23,000部
〒116-8501
荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111

あらかわ区報 Jr

6.24
No.125

あらかわ区報 Jr.は
荒川区ホームページで
ご覧になれます

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kusei/koho/koho/arakawakuhojr/index.html>

ARAKAWA KUHO JUNIOR

ジュニア



みんな、
がんばって～



義肢でアスリートをサポート!

義肢装具 サポート センター を訪問!



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催まで、約1年になりました。そこで今回、民間では国内唯一となる、義肢・装具の製作から義肢の装着・機能回復訓練までを行う総合的なリハビリテーション施設「公益財団法人 鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター」を、南千住第二中学校3年生のジュニア記者たちが訪問。義肢・装具について詳しく教えてもらいました。



問い合わせ 義肢装具サポートセンター ☎(5615)3313

次は7月に発行する予定です

義肢装具士のみなさんに、 色々教えてもらいました



義肢・装具について教えてくれたのは、施設で働く義肢装具士の方たちです。義肢装具士は、一人ひとりに合う義肢・装具を一から製作するだけでなく、リハビリ中のメンテナンスからアフターケアまで長い期間にわたって利用者の方をサポートします。

製作過程を見学!

豊富な知識とプロの技が必要なんだね!



義足は、事故や病気などで足を失った人のために作られる人工の足です。切断部を収納するソケットと、切断の状態に応じて必要となるパーツを組み合わせることで完成します。ひざ上を失った人は大腿義足、ひざ下を失った人は下腿義足を装着します。



▲ギプス包帯を使って切断部の型を取り、足の形に合わせて細かく調整していきます。骨折をしたときなどにも使われるギプス包帯は、包帯を石膏で固めたもの。手に持ってみると意外と重い!



▶石膏の型をもとに、プラスチックやアクリル樹脂でソケットを製作します



▲ソケットは義足の人の体重を支える重要なパーツです

スポーツ用義足ポイント①

パラリンピックや障がい者スポーツ大会などでは、多くの選手がスポーツ用義足を使っています。走行時は体重の8倍以上の負荷がかかるので、それを支えるソケットにはアクリル樹脂やカーボン繊維が使われます。

歴史を学ぶ!

こんなにオシャレな義足もあるんだね!



施設には、昭和初期に製作された義肢・装具から最先端のものまでを展示。義肢・装具がどのように進化してきたのかが分かるのはもちろん、日常用義足とスポーツ用義足の違いも学ぶことができます。

▼実物の義足や義手を手に取るジュニア記者。アスリートが使用するスポーツ用義足も展示されています



木村真翔くん

昔と比べると、義肢・装具の技術も進化しているんだね

スポーツ用義足ポイント②

陸上選手が使うスポーツ用義足は、カーボン製の板パネの反発力によって前に進みます。走ったり跳んだりする動きを可能にする、独特の形状が特徴です。

レジェンド義肢装具士の白井二美男さんに話を聞きました



Profile

日本で初めてスポーツ用義足を製作。シドニーパラリンピック、アテネパラリンピックには日本代表選手のメカニックとして同行しました。スポーツ義足の第一人者として、障がい者スポーツの発展に貢献しています。

リハビリテーション室を訪問。 義足体験へ

義足で歩くのはかなり難しいんだね

義足で歩けるようになるには、3か月～半年ほどのリハビリが必要だと言われています。それをサポートするのは、リハビリの専門家である理学療法士です。施設の中には診療所もあり、義肢装具士、理学療法士、医師など医療のプロたちが連携して利用者の方を支えています。

佐々木美侑さん



▲ジュニア記者がスポーツ用と日常用の義足を体験しました。日常用義足のポイントは、かかとから踏み出すこと。手すりにつかまっても「怖い!」と声が出てしまうほど、バランスを取るのが難しい!

スポーツ用義足ポイント③

義足での歩行よりもさらに難しいのが、スポーツ用義足での走行です。義足で走ったり跳んだりするには、高い身体能力と努力が必要! ジュニア記者は両足にスポーツ用義足を装着して、歩いてみました。

義肢・装具で変わる生活 日常 表現



義肢・装具は今、技術の進歩でとても扱いやすくなっています。義肢を使う人たちの中には、アイドル活動やモデルなど、あえて義肢を見せることで個性を表現している人たちもいます。義肢・装具の進化により、利用者の方の生活や日常はこれからもっと変わっていくでしょう。



▲義肢装具士さんに、義肢の表現者の方たちについて説明してもらいました



▲陸上競技だけでなくダンスや武道など、義肢により日常生活の幅が広がります



▲義肢を「見せる」ことは「魅せる」ことにもつながっています

公益財団法人 鉄道弘済会 義肢装具サポートセンターご案内

〒116-0003
東京都荒川区南千住4-3-3
☎(5615)3313



Q この仕事をしていて良かったと思う瞬間は?

A 義足の子が走れるようになって陸上部に入ったとか、今までできなかったことができたという話を聞くのが一番嬉しいです。利用者の方の中には、走ることを諦めてしまっている人も多く、でも、走れるようになるとみんな「風を感じられて気持ちいい!」と言います。

Q どんなときにやりがいを感じますか?

A ものづくりをして、さらに利用者の方の役に立てるといのがこの仕事のやりがいだと思います。頭も手も使うし、医学的な知識も必要とされるので大変ではあるけれど、面白いですよ。

Q 義肢装具士の仕事で一番難しいことは何ですか?

A 切断した部分のことを専門用語で「断端」と言いますが、断端は人によってまったく違います。皮膚が薄いなどの理由で傷つきやすい断端の方は、義足を使っているうちに出血することもあり、調整がとても難しいです。

Topics

みなみせんじゅとしょうかん
**南千住図書館・
荒川ふるさと文化館**
たなばた
七夕まつり

☆七夕の歴史を知ろう&
七夕飾り作りを体験しよう☆
七夕の歴史や由来についてのパネル
を展示します。期間中、七夕飾り作り
も行います。
期間 6月28日(金)~7月10日(水)
会場 荒川ふるさと文化館
1階エントランス
費用 無料

☆七夕まつり☆
七夕にまつわるお話や、パネルシア
ターを行います。短冊に願い事を書い
て笹に飾ります。
日時 7月3日(水)
午後3時30分~4時30分
会場 荒川ふるさと文化館
地下1階視聴覚室
対象 小学生以下50人(当日の先着
順、未就学児は保護者同伴)
費用 無料
申込方法 直接会場へお越しください
問合せ 南千住図書館☎(3807)9221
荒川ふるさと文化館☎(3807)9234



第11回
あらかわバラの市を開催

5月18日、第11回あらかわバラの
市が開催されました。今年は70種類
を超える品種、4100鉢のバラを用意。
晴天にも恵まれ、訪れた多くの人達
は、色とりどりのバラの中からお気に
入りの一鉢を選んでいました。

▶あいさつをす
る西川区長



▼お目当てのバ
ラを求めてに
ぎわう様子



なりたい自分になる!
「消防士」
になるために!

しやうらいのゆめ
将来の夢
インタビュー
第4回

だいがくそつぎょうご いちど みんかん きぎょう しゅうしよく
大学卒業後、一度は民間の企業に就職し
たものの改めて、消防士を目指した村上哲
郎さん。そんな村上さんに、消防士になっ
た理由を聞きました。

いつごろから消防士になりたいと思いましたか?

20代半ばになって街を走る消防車を見たとき、直感的に消
防士になろうと思いました。大学生のとき、阪神淡路大震災で
被災した影響があったからかもしれません。

消防士になるために、まず何をしましたか?

本当に人生をかけてやりたい仕事なのかを見極めるために、
東京消防庁についてとことん調べました。世界でも有数の高度
な技術を持った特別救助隊や水難救助隊があることや歴史・創
設の理念を知って、一生の仕事にしたいと強く思いました。

消防士になって嬉しかったことはありますか?

やはり火事や水難事故で救助した人や、震災などで応援に行
った先の消防士さんから感謝の手紙をいただいたときですね。
感動して泣くほど嬉しかったです。

消防士になりたい小・中学生にアドバイスはありますか?

どんな仕事にもそれぞれの仕事に特有の知識や技術が求めら
れます。特に人命救助の現場では、いろんな知識や経験を持つ
人たちが集まって協力しなければ、人は助けられません。人を
救う仕事を目指すなら、学校での勉強をしっかりとって、それ
を基礎に知識と技術を積み上げていくしかありません。人を救
うことに近道はないので、一步一步を大切に頑張ってください。



応援message
訓練に
終わり無し!
村上哲郎
「この仕事は毎日が勉強と
訓練です。コツコツと目標
に向かって努力することがと
ても大切だと思います」と
村上さん。

あらかわ
今昔ものがたり
日 [ばしょうくんと旅する奥の細道]



那須野の少女・かさねちゃんとの出会い

3月27日に旅立った芭蕉さんは、日光道中
を北上し、4月1日(今のカレンダーで5月20
日)、新緑に包まれた下野国の日光(栃木県日光
市)に到着。江戸幕府初代将軍・徳川家康さん
が眠る絢爛豪華な東照宮をお参りした。その時
の感動を「あらたうと青葉若葉の日の光」の句に
込めたんだって。將軍家のご威光に感動した芭
蕉さんと曾良さんは、翌4月2日、那須地方に
向かって軽やかに歩き出した。今回は、那須野
(大田原市)のお話だよ。
那須の黒羽と云所に知る人あれば 目指すは芭
蕉さんが訪問を楽しみにしている城下町・黒
羽。そこに弟子の桃雪・翠桃兄弟が住んでいた
んだ。栃木県の中心を流れる鬼怒川を渡る頃
にはすごい土砂降りになり、玉生(塩谷町)という
所に一泊したんだって。翌朝、晴れたものの街
道はぬかるんで、歩きにくい。那須野の大平原
が広がり、足は泥だらけだし、芭蕉さんはヘト
ヘトになってしまったんだ。
そんな時に目の前に現れたのが、のんびり草

を食べている一頭の馬! 近くにいた農夫に貸
してもらえないかとお願いすると、農夫はこん
なことを言った。「この辺りの道は複雑で、道
に迷ってしまうだろうから、馬を貸してあげよ
う。馬の赴くままに進み、止まったところで馬
を返してくればよいからね。」
名を「かさね」と云 芭蕉さんは馬に跨り、曾良
さんがそれに従い黒羽に向かって進みだすと、
二人の子どもがとことこ付いて来た。一人は女
の子。名前を尋ねると「かさね」と答えた。聞き
なれない優しい名前だったので、
かさねとは八重撫子の名なるべし
と曾良さんが一句詠んだ。昔から小さな子ども
を花の撫子に例えてきた。この子の名は「かさ
ね」だから、花びらが重なっている八重撫子の
ことだろうね。かさねちゃんたちは、奥の細道
の旅の中で唯一登場する子ども。道に迷いそ
うで、心細かった芭蕉さん
にとって、忘れられな
い、心温まる出会いだっ
たんだね。



「龍頭奥の細道」
(荒川ふるさと文化館蔵)